

港区立中之町幼稚園（2年目）

【園長】 酒井 正美
【園児数】 93名
【学級数】 5学級



次の取組へ

【課題・改善】

- ・2年間の研究で大きな成果がでたが、園庭で遊ぶ幼児や教師は毎年入れ替わる。本研究の成果を教育課程、教育計画に位置付け、伝承、実施されるようにしていく。
- ・園庭は樹木が生長していくなど、変化をしていく。近隣には自然豊かな公園やスペースがある。今年度の取組を土台に、今後の園庭の変化や近隣の環境を取り入れ、引き続き、にぎわいのある「豊かな遊びがあふれる園庭環境」をつくり、「意欲的に遊ぶ幼児」を育てるため、実践、評価を重ねていきたい。

目標

- ・園庭で意欲的に遊びに取り組む幼児（90%以上）
- ・園庭で体を動かして遊ぶことが好きな幼児（90%以上）

【成果】

- ・園庭の環境（自然、可動遊具など）を工夫したり、異学年の教師間で連携を図りながら教師自ら園庭に出て幼児と一緒に遊んだりしてきたことで、意欲的に遊ぶ幼児で園庭がにぎわうようになった。また体を動かして遊ぶことを楽しむ幼児も増えた。
- ・目標に掲げた「園庭で意欲的に遊びに取り組む幼児90%以上」は達成できた。また5歳児一人ずつにアンケートをとると、「園庭で体を動かして遊ぶことが好きな幼児100%」であり、2点目の目標も達成できた。

【実態・課題】

- ・令和5年9月に新しい園庭が完成した。園庭改修のため園庭が利用できない期間があり、「園庭で遊ぶ」文化が途切れてしまったため、教員も幼児も試行錯誤しながら園庭を利用して遊んできた。
- ⇒園庭の自然環境、運動遊び環境、可動遊具等を見直し、幼児が興味をもって意欲的に遊ぶ環境をつくる。
- ⇒豊かな園庭で意欲的に遊ぶ幼児を育てる（生涯にわたって心身の健康を保持増進することができる資質・能力を育む）

【取組】

- 意欲的に遊ぶ幼児を育てる
～豊かな遊びがあふれる
園庭環境の工夫と援助～
- ・豊かな遊びがあふれる園庭環境（自然環境、場、遊具、教材）を、教員が教材研究しながら工夫してつくる。
- ・意欲的に遊ぶ幼児を育てるために、教員間で連携しながら遊びの援助をする。研究保育を行い、協議する。
- 講師を招聘し保育や運動遊びについて学ぶ。
- ・前聖徳大学大学院教授 篠原孝子先生
- ・体育インストラクター 河合秀太郎先生

【取組（詳細）】

○ 自然環境を豊かにする

- ・ビオトープ池やダンゴ虫の生息場の環境を整え、親しみがもてるよう名前をつけたり「にこにこ池」「むしむしパラダイス」、チョウが集うための植物を植えたりした。ヤゴやチョウの蛹が羽化する様子に心を動かされたり、虫探しに夢中になって取り組んだりするようになった。
- ・遊びに自由に使っている雑草や花を増やしたことで、色水やごちそうづくりに幼児自ら取り入れ、楽しむようになった。
- ・泥団子づくり場「おだんごきっちゃん」をつくったことで、好きな時に泥に触れて泥団子づくりに取り組むようになった。

○ 運動遊び環境、可動遊具等を豊かにする

- ・園庭に可動遊具を増やしたことで、自分たちでサーキットコースをつくって体を動かして遊んだり、ごっこ遊びの場をつくって友達と一緒に遊んだりするようになった。
- ・港区が全校園に設置したボルダリングに、3歳児から意欲的に取り組んでいる。

○ 講師から学ぶ

- ・前聖徳大学大学院教授 篠原 孝子 先生を招聘し、保育観察をしていただき、その後、園庭環境の工夫と援助について協議した。研究発表会シンポジウムでは、講師として登壇していただき、意欲的に遊ぶことの大切さについて学んだ。
- ・体育インストラクター 河合 秀太郎 先生を招聘し、園庭でも遊べるサーキットコースを教えていただき、幼児も一緒に体を動かして遊ぶことを楽しんだ。



河合秀太郎先生と一緒に、体を動かして遊ぼう！